

第9回日本医療研究開発機構  
レギュラトリーサイエンス公開シンポジウム

ハイブリッド開催 (会場開催とオンライン開催の併用)

# レギュラトリーサイエンスにおける 動物試験代替法の発展

～細胞培養技術の進化と展望～

令和5年12月6日(水) 13:00～18:00

参加無料/事前登録制

会場▶日本橋ライフサイエンスハブ 東京都中央区日本橋室町1丁目5-5  
(室町ちばきん三井ビルディング8階)



## プログラム

開会の挨拶 日本医療研究開発機構 理事長 三島 良直

13:10～14:35 【第一部】特別講演

小島 肇 『動物実験代替法から New Approach Methodologies (NAM) への変遷』

国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 併任 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部

真木 一茂 『医薬品評価における動物試験代替に向けたPMDAの考え』

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 上級スペシャリスト

鈴木 睦 『製薬業界の立場から(課題や今後の展望について)』

日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 基礎研究部会

14:45～16:55 【第二部】開発事例とRS 研究

荒川 大 『薬物トランスポーターを考慮した薬物安全性評価を可能とする肝・腎細胞培養手法の構築』

金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 准教授

水口 裕之 『ヒト生検腸管およびヒト iPS 細胞由来腸管オルガノイド単層膜を用いた新規ヒト型 *in vitro* 試験系の開発』

大阪大学 大学院薬学研究科 教授

大久保佑亮 『シグナルかく乱のリアルタイム計測を基にした *in vitro* 発生毒性試験』

国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター毒性部 主任研究官

鈴木 郁郎 『NAMを用いた神経系における化合物の安全性評価と国際動向』

東北工業大学 大学院工学研究科 教授

石田 誠一 『生体模倣システム(MPS)の新規ヒト型 *in vitro* 医薬品評価法としての規格化、国際標準化に向けた基盤整備に資する研究』

崇城大学大学院 工学研究科 応用生命科学専攻・国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター

17:05～17:50 【第三部】パネルディスカッション

テーマ：『レギュラトリーサイエンスにおける動物試験代替法の発展～細胞培養技術の進化と展望～』

閉会の挨拶 医薬品等規制調和・評価研究事業 プログラムスーパーバイザー 奥田 晴宏

※プログラムは一部変更となる可能性があります。最新情報はこちらをご確認ください。 [https://www.amed.go.jp/news/event/231206\\_RSsympo.html](https://www.amed.go.jp/news/event/231206_RSsympo.html)

### 【お申し込み】

右記HPより  
お申込みください

<https://amed2023rs-sympo.jp>

お申込期間：[会場参加] 令和5年11月29日(水)16時まで(定員150名にて受付締切)

[オンライン参加] 令和5年12月4日(月)16時まで(定員500名にて受付締切)

### 【お問合せ先】

参加申込について

[第9回 日本医療研究開発機構 レギュラトリーサイエンス公開シンポジウム] 運営事務局  
〒141-0022 東京都品川区東五反田2-3-5 五反田中央ビル7F 株式会社Piic 担当:和泉・金子

TEL:03-6822-5350 受付時間:10:00～17:00(土日祝日を除く) E-mail: [amed2023rs-sympo@piic-inc.com](mailto:amed2023rs-sympo@piic-inc.com)



主催



国立研究開発法人日本医療研究開発機構  
Japan Agency for Medical Research and Development

創薬事業部 規制科学推進課